

名古屋市が今年度から推進する「ICT(※)を活用した地域支援モデル事業」の一環として、9月19日(日)に「はじめてのスマートフォン体験講座」が大森コミュニティセンターで開催された。

新型コロナウイルス感染症への対応の中で、日本のデジタル化が諸外国に比べて遅れていることが指摘され、国は9月1日付でデジタル庁を発足させ、行政サービスの電子化、国と自治体のシステム統合とマイナンバーカードの利便性向上などを目的として活動を開始した。

参加者は「スマホは電話だけで、メールは使いません」という人から、「本日の議事録はLINEに添付して送信」というレベルの人まで様々である。まずは実際にスマホの持つ便



**自治会活動にもICT 求められるデジタル化、効率化**

市民局地域振興課では今年度から前述のモデル事業を始めることとなり、守山区では大森学区と志段味東学区がモデル団体に選出された。

モデル事業では、オンライン会議や電子閲覧板などの利用をめざし、スマホやタブレットを実際に使ってみることから出発である。第一弾としてスマートフォン体験講座の開催となった。自治会役員などを始めとして10人余りが参加して、スマホの便利さを実感する講座となった。



はじめてのスマートフォン体験講座

(※)ICT (Information and communication technology)とは、通信技術を活用したコミュニケーションを指し、情報処理だけではなく、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称。

感染対策の核となるワクチン接種は大会期間中に第一回目の接種が国民の46%にまで進んだが、感染者の減少にはつながらなかった。

そんな中でも日本選手団の活躍は目覚ましく、金メダル27個、銀14、銅17と、世界第三位の金メダ



コロナ禍でも日本勢は大健闘

利な機能を体験し、それを利用することからスタートである。引き続きLINEやオンライン会議、電子閲覧板などの体験講座が予定されている。それらの習得により、自治会業務や活動の効率化を図りたいものである。

事前に、大会の延期や中止の意見も噴出する中、会場は無観客で競技が行われ、パブリックビューイングも中止となった。

コロナ禍での大会には功罪はあったが、選手の大活躍のおかげで感動に浸れた二週間であった。日本選手団に「金メダル」である。



無観客で開会式、日本選手団の入場

**コロナ禍の東京オリンピック 愛知県勢も大活躍!!**

7月23日(金)から始まった東京オリンピックは多くの点で記憶に残る大会となった。

大会のロゴはTOKYO 2020のまま一年遅れの表示であり、開会式は35度を超える真夏の開催である。そして何よりも

ル獲得数で、国民に勇気と希望を与えてくれた。愛知県勢の活躍も目を引き、金メダルのソフトボールでは名古屋出身の後藤希友投手が抑えて活躍し、愛知県勢主体の女子バスケットボールでも体格的な劣勢をはねのけて銀メダルを獲得した。

また、守山東中学校出身の山内晶大選手も男子バレーボールで大健闘し、チームは8強まで勝ち進んだ。とにかく感動の場面をいくつも演出してくれた。

内科・消化器科・リハビリテーション科

**志水クリニック**

院長 志水明浩

守山区大森一丁目1204 ☎798-1311(代)

診療時間  
平日 午前9:00~12:00 午後5:00~8:00  
土曜 午前9:00~午後1:00  
休診日 水・土曜午後 日曜・祝日

とみた歯科クリニック

〒463-0021 名古屋市中区大森1-2412

☎ご予約・お問い合わせ 052-799-0120

歯科	小児歯科	矯正歯科	歯科口腔外科			
診察時間	月	火	水	木	金	土
8:40~12:30	●	●	●	●	●	●
14:00~18:00	●	●	●	●	●	●

休診日：木曜日、日曜日、祝祭日  
〒463-0021 名古屋市中区大森1-2412



# 天王祭 納庫前で華やかに山車を披露



新型コロナウイルスの影響で昨年に続き、天王祭の山車巡行は中止となり、八剣神社で神事が執り行われた。

その後、大森会館に隣接する山車納庫前に、前厄・本厄・後厄の若衆が集合し、山車を納庫から二年ぶりに引き出した。参加者全員にコロナウイルスの抗原検査を実施

した上で、山車の梶棒締め、飾り付けを行い、納庫前で山車を披露した。素肌さらしを巻き、揃いの半纏に身を包んだ若衆達は、前厄・本厄・後厄それぞれに白、赤、黄の鉢巻を結び、全員で「わっしょい、わっしょい」の掛け声を掛け合い、大森の繁栄とコロナ退散を祈願した。また、太鼓、鼓、笛を奏でる囃し方も山車に乗って演奏し、周辺には祭の雰囲気



大森の安寧を祈願

## 敬老の日 記念式典中止 登録者へ記念品を贈呈

今年もコロナ感染拡大防止のため、敬老会の式典は中止となった。例年、400人近い方々の参加があり、演芸や抽選会を楽しんでいた。大森学区では、毎年70歳以上の方に登録をお願いしている。式典こそ中止になったが、今年も「記念タオル」と「銘菓なごやん」を



記念品

全員に配付した。登録者の内、100歳以上の方は4名で、そのうち今年100歳を迎えられた方は、大森三丁目の白井志

ず子さんと大森四丁目の前田喜代子さんのお二人である。誠に長寿おめでとうござい

と、65歳以上の比率が高く、高齢者夫婦の比率も高いことが判る。今後、高齢化は更に進むことが予測されるだけにお年寄りにやさしい町づくりが望まれる。そのためにもコミセン講座などに積極的に参加し、隣・近所という横のつながりを大事にしたいものである。

## 夏の生活安全市民活動 児童の下校を見守る

7月8日(木)に夏の生活安全市民活動の一環として、大森小学校児童の下校時に防犯パトロールが行われた。守山警察署、守山区役所、学区連絡協議会、青少年育成協議会および子ども安全パトロール隊員ら総勢約80名が参加した。パトロールに先立ち、

大森コミセンに集合した参加者を前に、守山警察署生活安全課永浦舞子係員から「不審者を発見したらすぐに警察に通報してもらいたい。また、他

県で児童が被害者となる交通事故が起きており、注意が必要である。併せて特殊詐欺防止の声掛けを！」との挨拶があった。

大森学区 生活環境指標 (令和2年度)

指標	単位	大森学区	守山区	名古屋市
人口	千人	8.7	117	2,328
世帯数	千世帯	4.1	76	1,125
15歳未満比率	%	11.3	15.0	12.5
65歳以上比率	%	24.8	23.8	24.2
外国人比率	%	1.6	2.5	3.8
単独世帯比率	%	35.3	30.7	42.2
核家族比率	%	57.3	62.3	53.0
高齢者単身比率	%	9.8	10.1	11.3
高齢者夫婦比率	%	12.5	11.4	9.6
持ち家比率	%	60.9	58.8	48.2
防犯灯数	個/ha	1.75	1.47	1.50
刑法犯認知件数	件/千人	9.36	5.54	8.70
交通事故発生件数	件/千人	6.47	3.79	4.10

その後、小学校の正門、西門に分かれた参加者は、下校する児童をそれぞれ



雨の中、お疲れ様でした

一般土木・生コン販売・産業廃棄物処理業



# 矢田川建設株式会社

YADAGAWA CONSTRUCTION CO., LTD.

大森五丁目1114番地 ☎052(798)1180代表

中日新聞大森専売店

# 大橋新聞店

大森二丁目2715番地 ☎798-0084



### 大森学区一斉清掃 自分たちの町を自分たちできれいに

6月の第一日曜日は大森学区恒例の学区一斉清掃日である。6月6日(日)当日は曇天で、時々小雨もぱらつく、あいにくの天気となったが、朝8時から各町内ごとに清掃作業が行われた。

今年もコロナ感染症が蔓延していることから、公園清掃など人が集まってしまう作業は取り止め、それぞれの家の周囲の道路の草取りや側溝の清掃などを行った。

折りしも5月末から大森小学校などを会場にコロナワクチンの集団接種が始まったこともあり、草取り中の会話は「もう



みんなで協力して清掃



ゴミ袋が並ぶ

打ちました?」「注射の翌日は跡が少し痛かったです」などとワクチンの話題が多かった。

一斉清掃の目的は、自分たちの町を自分たちできれいに保つことであるが、清掃作業をとおして近所の方々の親睦を深めることも大事である。普段は接触の少ない、旦那様方にもぜひ参加いた

ただき、近所の方々の交流を深めてもらいたいものである。小雨の中、一時間ほどの作業が終わって、雑草やゴミの可燃袋と土砂袋があちこちの集積場に積まれ、道路がきれいになるばかりでなく少し広くな

### 資源回収 大森中PTAと自治会が実施中



名古屋市では、子ども会などの地域住民団体と学区単位で活動する自治会などの団体が集団資源回収を行っており、大森学区では現在、大森中学校PTAと大森学区自治会がそれぞれ回収活動を実施している。(大森小学校PTAも去年までは行っていたが、今年度は中止している。)大森中学校PTAは通常6月と10月(今年度は10月は中止)、大森学区自治会は毎月第4金曜日の実施である。

回収品は「新聞、雑誌などの紙類」「段ボール」「牛乳パック」「衣類・布類」などであるが、PTAの回収では「アルミ缶、スチール缶」

も回収している。紙類は再生紙としてリサイクル利用され、また古着は、途上国で再利用されたり工場で機械類の掃除用ウエスとして使われるなど用途が広い。

大森中学校PTAが6月11日(金)に行った資源回収では、集積場所が藪田公園、五反田公園、大森中央公園西、脇田公園、白晴公園などに設けられ朝9時から回収車が巡回して、持ち寄られた資源の回収を行った。

この資源回収には名古屋市中から実績に応じて助成金が支給され、その助成金が各団体の活動資金の助けとなっている。リサイクル可能な資源はゴミとして排出せず、ぜひ資源回収に回してもらいたい。

### 大森小のあいさつ運動 マスクの内から「おはよう！」



も感染力が強いとのことで、マスクや手指消毒は従来にも増しての徹底した登校である。

大森小学校では、夏休み明けの9月6日(月)から一週間「全校挨拶週間」を展開した。初日の6日には、大森学区青少年育成協議会が主体となり、民生委員、老人クラブ、自治会などのメンバーも参加して、校門や交差点において、登校する児童に「おはようございます！」と声掛けするへあいさつ運動を行った。

愛知県にはコロナの緊急事態宣言が発出中もあり、夏休み明けの授業は午前中だけの短縮授業となっている。コロナのデルタ株は子供に対して



マスク姿で元気にあいさつ!

セレモニーホール  
*Ceremony Hall*  
**紫雲殿 守山離宮**  
名古屋市中守山区八剣2-914  
☎ 052-798-4401

美和ロック代行店  
錠・鍵・分解・修理交換致します。  
**やつるぎ金物**  
☎ (052) 798-0210  
守山区八剣一丁目1406番地



# 大森学区自治会

## 大森学区は地域のルーツ

大森学区は江戸時代に大森村と呼ばれていた集落を母体としています。

明治初期には春日井郡大森村となり、明治13年に春日井郡が東西に分かれてからは東春日井郡に属しました。

戦後になり、昭和29年には守山市、昭和38年には名古屋市に合併し、名古屋市守山区大森となりました。当時の大森は、瀬戸街道添いに集落があるのみで、あとは見渡す限り田畑という農村地帯でした。小学校も大森小学校一校のみで、その校区は大森のみでなく、今の天子田はもちろんのこと本地丘や森孝、更には四軒家まで広がっていました。各学年の人数は「団塊の世代」でも100人余り(2クラス)でした。しかしながら、昭和41年度に始まった区画整理事業の進展とともに、大森の集落は急激に拡大し、人口も激増しました。

それに合わせて小学校も本地丘、天子田、森孝東、森孝西、大森北の5校が増設されて、大森学区も今の規模になり、大森学区自治会が現状の形で組織として整えられました。

以上の意味で、大森学区はこの地域のルーツであると言えます。

## 自治会の組織と目的

大森学区自治会は現在18町内からなり、町内ごとに選出された町内会長をメインに構成されています。

自治会の目的は「安全で快適な生活のできる、明るく、楽しい町づくりを目ざすとともに、大森学区の発展を図る(規約第2条)」ことでもあります。

## 自治会の役割

少子高齢化の進展など、私達を取り巻く環境が大きく変わりつつあり、子育てや福祉など地域社会が抱える課題も多岐に及んでいます。

# 大森あれこれ(3)

規約に定められた大きな目的の下、こうした具体的な課題は個人の力では解決が難しく、地域住民が共通の課題として認識し、みんなで力を合わせて課題解決に取り組むことが肝要です。

そのため自治会は、名古屋市や守山区と連携を取り、会員相互の連帯意識の高揚と親睦を図るために尽力しています。

## 自治会の活動

地域には様々な要望があります。「もっと住みよい町に」「子供達が安全に遊び学べる環境を」「安全に暮らせる町に」「住民同士の交流を」などです。自治会はそれらの声を聞き、協働して解決してゆく場です。また住民の交流づくりの中心でもあります。日常生活の中で突発的に遭遇する災害や事故など、“いざ”という時に備えて日頃から隣近所の皆さんと交流を深めることが大切です。

その実践として自治会では、親睦活動として「運動会、盆踊り、敬老会、ソフトボール大会、自然散策」など、福祉活動として「高齢者の見守り、募金活動」、環境美化活動として「公園や道路の清掃、資源回収(リサイクル活動)、花植による緑化活動」、防犯・防災活動として「防犯パトロールの実施、防災訓練

の実施、子ども達の登下校の見守り」、広報・情報提供活動として「広報誌おおもりの発行、広報資料の回覧、地域課題の市政への要望」等の活動を行っています。こうした活動は、住民の皆さんの参加により、初めてその意義が達成されるものです。こぞってのご協力・ご参加をお願いします。

## おわりに

昨年からのコロナ禍で、各種行事を自粛せざるを得ない状況が続いていますが、それでも何か出来ることはないかと考え、住民にとって望ましい自治会とは?と常に見直し、連帯意識でまとまった、心のふれあう自治会を目指して頑張っていきたいと思っています。



自治会の定例会



和室リフォーム完成報告会

大森コミュニティセンターは、最近高齢者の利用も多く「和室で豊に座るのはきついので、椅子・テーブル席に変えてほしい」との要望がたくさん出ており、それに応えて、一階の和室(さくらわかば)を、畳敷きから板床張りの洋室へリフォームすることとなった。工事は、この夏のお盆期間の休館を利用して行い、8月15日に完成した。工事の完了とともに、移動可能な軽量の机・椅子を設置して、利便性の向上を図った。また、板床に変わったことにより照明も反射が増して室内が以前より明るくなり、高齢者ばかりでなく、各

# 「コミュニティフォーラム」一階和室を洋室に改修



改修工事

種団体の会議や趣味の会等にも利用し易い部屋に変わった。8月19日(木)には大森学区連絡協議会の関係者が集まり、「和室リフォーム完成報告会」が行われた。皆さんから「前よりきれいになって、使い勝手もいい」との声も聞かれ、関係者も満足の仕上りである。コミュニティ運営委員会総務の丹羽正昭さんは「これで終わりではなく、これから皆さんのご意見を参考に常に改善を図り、より多くの方に利用されるコミュニティにしていきたい」と話された。新しくなったコミュニティで、地域の交流がこれまで以上に活発になることを期待したい。

## 編集後記

▼コロナ禍は2年も続き、今年度の自治会行事も中止続き。会員相互のコミュニティセッションと連帯意識を培う機会が大きく損なわれていた。▼この編集後記でも昨年4月発行の131号から6号の中心となり、悲しい現実と言わざるを得ない。▼第5波については、9月いっぱい、多くの都道府県対象に出されてきた緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除された。しかし、次なる第6波の到来を予測する声は多い。このコロナ禍の騒ぎが静まり、ポスト・コロナの生活が始まることを願いたい。そのためにもまだまだマスク着用や3密回避などの対策は続行する必要がある。▼自治会行事が復活となり、この広報紙も賑やかになり、この広報紙も賑やかな記事満載の8ページでの発行となる日を楽しみにしている。▼前号のこの欄で紹介したコミュニティの改修も済んだ。今後盛んに利用されることを期待したい。それれもコロナ次第かも知れぬが、(山田豊明)編集委員 荒木洋道 池端一男 白井洋行 白井礼司 梅本孝也 酒井桂一 鈴木忠宣 丹羽正昭 牧野敏弘 山田豊明 (五十音順)